H21年2月27日(金)
朝・夕 奈良 新聞 版

清流 復活へ 大和川の挑戦 ②

「日本一汚い川」からの脱却

流域降水量が少なく

国が管理する一級河川で平成十九年まで三年連続ワーストワンになっている大和川。それには流域の降水量が少なく、山地面積の割合も少ないという自然要因が大きい。

奈良県と大阪府にわたる大和川水系の県域は上流の約七百十二平方キロ。県は山が多く降水量が多いというイメージがあるが、それは吉野地方で、大和川流域（奈良盆地）はまったく逆。

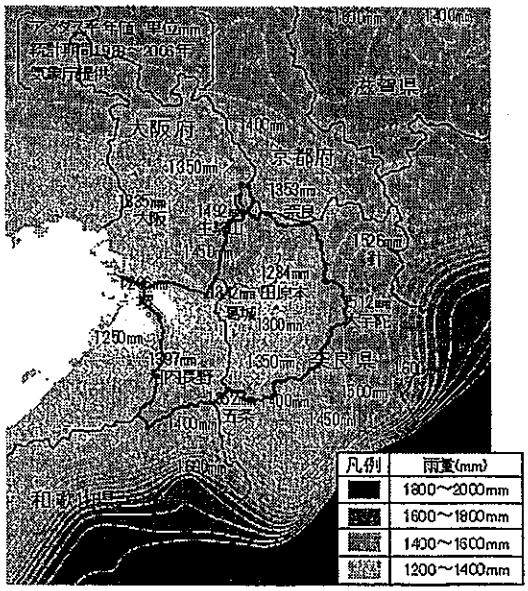
大和川流域は、年間降水量が全国平均の約一七〇〇ミリに対して約一三〇〇ミリと少ない。また、流域に占める山地面積の割合も全国平均の約70％に対して約40％と少なく、保水力が弱いのだ。

川の水量が少ないため、奈良盆地では古来より数多くのため池が造られるなど飲料水や農業用水の確保に苦心してきた。「大和豊年米食わず」（大和平野が豊年の年は、他地域では雨が多く水害のため凶作となる）という言い伝えもあったぐらいだ。

このため、大和川流域は吉野川など他水系から水の供給を受けている。特に吉野川の水を奈良盆地へ引く計画は江戸時代から三百年の夢であったが、昭和六十二年に実現。「吉野川分水物語」などとして社会科の教材になっている。

他水系から水道水の供給を受けて人口が増加、大和川流域の人口は県の九割を占める。流量が少ない大和川水系に多くの生活排水が流れ込むため、大和川では汚れの原因の80％以上を生活排水が占めるという。

自然要因も大きい「汚れ」原因



年間降水量等雨量線図

資料提供：大和川河川事務所

県は「他水系から供給された大切な水を汚さず、きれいにして川に流す必要がある」と水質改善の必要性を訴える。

◇

清流復活に向け、県初の「大和川一斉清掃」が三月一日、大和川流域各地で行われる。県は住民の参加を呼び掛けている。詳しくは県河川課、電話074（27）7504。

＝毎月1回、下旬に掲載＝